



子育て、高齢、自然の交流現場にて

【ボランティア活動奨励賞】

子育てから介護まで
地元密着で顔の見える情報発信

鎌倉子育てガイド

鎌倉子育てガイド(以下「コソガイ」という。)は、お母さんたちが気軽に立ち寄れる場所や子連れでも受診できる医療機関の情報をネットを利用して発信し、顔を合わせて交流する会を開いて子育てをサポートする団体だ。平成11年から活動を開始し、今年15周年を迎えた。

9月のよく晴れた日。鎌倉市内のカフェで行われた「鎌倉子育てガイド(コソガイ)の15年展」に伺い、代表の入江麻理子さんにお話を伺った。

コソガイの15年展

会場の壁面には、コソガイのこれまでの活動を紹介した写真と説明文が展示されている。その内容は鎌倉市内の親子でできるならいごことや、交流会、お医者さん、高齢者施設、野菜畑など多岐にわたる。この団体はいつたいい何をやっているのだろうかと戸惑ってしまふ。ただ、そこに掲示された写真の赤ちゃん、お母さん、おばあさん、みんなの表情が、きらきらと輝いているという点では共通している。これらの写真を撮ったのはコソガイ代表の入江さん。確かにこの日、大きなカメラを自在に操る姿はプロのカメラマンのようだった。

お話を伺って、入江さんは、鎌倉市内を隅々まで飛びまわり、取材の企画撮影・原稿作りと一人で何役もこなす「カメラレポーター」でイベントや交流会を企画する「プロデューサー」であることがわかった。鎌倉をこよなく愛する住人であるが、ここに住み始めたのは自身の出産のときから。鎌倉は

風光明媚な古都として知られているが、当時は駅や道路はバリアフリーではなく、おむつ替えができるトイレや子連れ向けの公園、施設も少なく、まち中でも「子連れお断り」などという貼り紙を見かけるほど、子連れは肩身が狭くて苦労したという。これが活動の原点になった。出産や育児に悩まないお母さんは、まずいない。だが、入江さんは悩み、なんとか乗り切るだけにとどまらず、後に続く人にむけて出産と育児を楽しくラクにする情報発信と交流の活動を始めてしまったのだ。

その行動力を示すひとつのエピソードとしてコソガイのスタッフ鎌田さんとの出会いがある。鎌田さんもまた、引越してきたばかりで戸惑うお母さんのひとりだった。そんなある日、鎌田さんが重い荷物を持って子連れで近所の階段を登っていると、それを手伝ってくれる女性がいた。話をしながら一

緒に登り、鎌田さんがデザインの仕事をしていると言つと、その女性は、「そんな人を待っていた。」と自身が取り組む活動に誘ってきた。

短時間に人を観察し活動に誘ってしまふその女性こそ入江さんであった。こうして、鎌田さんともにコソガイにかかわることになった。

コソガイの活動

コソガイは、まだ「子育て支援」という言葉すら一般的でなかった平成11年に、数名のお母さんたちが始めた活動だ。子育て情報など誰も知らなかったから自ら取材・発信をめざした。印刷物の発行には資金がかかりすぎるので、「インターネット」に着目。黎明

期のネットでは誰もが初心者だ。コソガイのスタッフは、忙しい育児の合間や夜間にホームページ制作の勉強をして取材し、メールで連絡を取り合つて約1年でウェブサイトの公開にこぎつけた。家族や友人たちの支えがあったからこそできたことだという。

そのサイト「鎌倉子育てガイド」は、検索エンジンで「コソガイ」で検索するとすぐにとどろつける。最初のトップ画面は、非常に見やすく安心感のあるデザインで、ページ上部には時期に

応じた最新情報が表示され、その下から「マタニティ」、「託児・子育て支援」、「医療・保健」といった数多くのメニューが、わかりやすく配置されている。入江さんを始めとするコソガイスタッフが、地道な取材で集めた1,000件を超える豊富な情報が編集されて、これなら知りたいことにもすぐに対応できそうだ。

これらは育児を支援する情報集であるが、「●●に困ったときは、△△すればよい」という知恵袋的な「ハウトゥー」を教えるものではない。投稿者の情報の上に頼る口コミサイトでもない。メインは、市内の小児科や遊び場など子育てにかかわるサービスの情報であり、事実や編集者であるスタッフのコメントからなっている。さらにレポートでより詳細な情報と担い手の姿を描いているが、コソガイが伝えるのは押しつけではない「紹介」であり、利用者が自分で考えて選べる「選択肢」なのだ。

「子育て」として始めた情報収集と発信ではあるが、利用者のニーズに合わせるうちに領域が広がった。平成17年には、市内の医療機関を紹介する「鎌倉 病院情報」を、3年後には、介護施設やサービスを紹介する「鎌倉介護

ガイド」を開発。さらに鎌倉野菜の名前を広めた「鎌倉野菜物語」、親子のための科学工作のネタ集「わくわくラボ」などのサイトも派生した。これらもまたスタッフが直接取材・体験したものだそう。

途中、新型インフルエンザが流行すれば「手洗いソング」を自作してネット配信とCD化し、震災直後には被災地支援に行き、凄惨な光景を目の当たりにしたことから「親子でできる防災」のアニメDVDとパンフレットも自作。市と協力して幼稚園、保育園、学校等に配布し啓発もした。

取材と交流活動

コソガイは、お母さんたちが子育てしながら身近な視点で情報発信を積み重ねてきた活動だ。現場を尋ね、わかりやすい言葉で伝える広範囲の取材で、さまざまな人に出会ったと言う。親子や子育て支援活動者、高齢・介護者、いろいろなジャンルのインストラクター、農家やお医者さん…。鎌倉で暮らす人々は一生懸命で魅力的なのだ。そして数々の写真や文章によるレポートが生まれサイトに掲載した。一方で活動や子育てそのものでは、迷いや不安といった課題にもぶつかる。病気や防

災について、あるいは介護や孤立について。そんな時は利用者目線で考え、つなげることで対応策を探ってきた。決して直接的な解決ではないにせよ「声を掛け合う、話す。誰かとながると思えば、ホッとすることもあるんじゃないかな」と。

取材で得た人脈を活かして「年齢や立場を超えた顔を合わせての交流事業」を開いたのだ。それが親子向けの自然体験活動や高齢者と子育てが一緒にお茶をするサロンや、「ドクターカフェ」(お医者さんによる小さな講演+親子との気さくなお話の場)など。もちろんこれらの様子もサイトに掲載している。

展覧会で見たのはそうした取材先や交流の写真で、入江さんによると「人の活動を紹介して支援もするし、自分たちも交流事業を主催する。取材といっても、その場に行つて、見せていただき、お手伝いして楽しんでいる。」という感覚らしい。多様に見えるこうした活動が目指すところはとてもシンプル。つまり「暮らしや家族」に対して情報と交流で支援することなのだ。

「子育て支援は、自分が苦労してきたから始めた。野菜や工作は今、オモシロいから、防災はいつか必要だから、介護情報はこれから苦労することだからやっている。」と続ける入江さん。これからも生活者の視点でできることを積み上げ、さらには孤立しがちな福祉施設と地域の人々を結んで一緒に楽しむ活動を盛り上げていきたいと語る。鎌倉を愛するそんなコソガイは、今日も子どもから高齢者まで鎌倉の人々の笑顔のために走り続ける。

<団体情報>

団体名： 鎌倉子育てガイド
 活動開始時期：平成11年5月
 代表者：入江 麻理子
 会員数：6名
 TEL：0467-43-4934 FAX：0467-43-4934
 [HP] <http://www.kosogai.com/>
 活動地域：鎌倉市
 活動分野：子どもの健全育成
 活動概要：鎌倉市内の小児科、保育所等の子育てに役立つ情報や、医療、介護に関する情報を紹介するwebサイトの運営、子育て支援、医療情報に関するイベント開催等

